

第6学年 図画工作科の実践

1 単元名 グランドボックス（卒業制作）木彫りの箱

2 単元目標

- (1) 生活の中で使えるように、目的や用途などから作りたいものを思いつき、図などをかいて構想を練る。
- (2) 作りたいものに合うように、デザインや彫り方を工夫して表す。
- (3) 自分や友人の作品の良いところについて話し合ったり、感想を発表したりして良さや美しさを感じ取る。
- (4) 主体的に彫ったり着色し、作り出すことを楽しもうとする。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

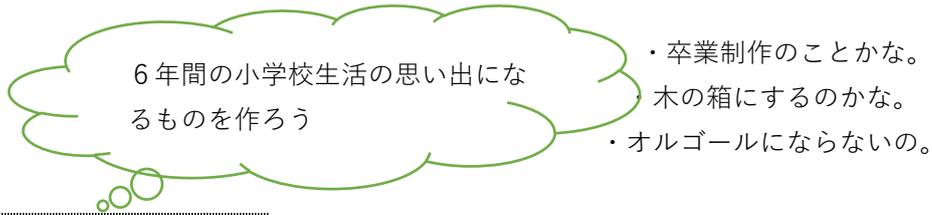
図画工作科では個々の作業が大半を占める。そのため単元の最後に鑑賞会を開き、お互いの作品のよさを認め合う場としている。鑑賞会では鑑賞カードを使い個々のふりかえりと、友だちの作品の良いところを書くようにし、発表するようにした。友だちの作品についてはグループ内で見せ合い、一人一人が友だちからコメントをもらえるようにした。そのためコメントが多い子など偏らないよう配慮した。また単元途中での作業過程で友だちの作品を見合う時間を設けていく。お互いに作品の良さを認め合い、より自分の思いや願いを作品に生かすことができると考える。

4 単元と指導について

本単元は小学校の図画工作の集大成の作品として、これまでの学習を生かし、「卒業制作」として取り組む。小学校の思い出の場面を刻んだり、好きな生き物、乗り物、スポーツ、などを刻んだり、自分だけのオリジナルのグランドボックスを作ることで、小学校卒業後も長く使っていける大切な作品に仕上げられるようにする。彫刻については線彫りの技法だけでなく、浮き彫りの技法も取り入れて、デザインだけでなく彫刻の技法を工夫することで、より愛着のある作品になると考える。

製作については、これまでに4、5年生で木版画での彫刻刀の使い方は経験している。しかし木彫りの技法に取り組んだことはない。木彫りの技法として「線彫り」の彫りの深さによる表現の違いや、「浮き彫り」などについて学ぶことで、自らのもつイメージを作品に表現できるようにしたい。そのため彫り方についての動画や参考作品を提示しようと考えている。また児童が主体的に製作が進められるように、学習過程全般においてワークシートを活用し、個別に製作時間の配分を決め、こだわりたい作業に時間をかけられるようにする。さらに授業の最後には友だちと交流できる場を設定する。友だち同士で彫り方や色彩について、お互いに教え合ったり、良いものを取り入れたりすることは、児童がより自分の思いや願いを作品に生かすことができると考える。また完成時には鑑賞会を開き、お互いの作品のよさを認め合う場とし、ひびき合う姿としたい。

5 単元構想



長く使えるものいいよね

- ・木の箱がいいよ
- ・丈夫なもので作らないと

木彫りの箱を作ろう

- ・どんな絵にしようかな
- ・思い出を絵にするの難しいな
- ・校章とか小田原とか北条のマークは？

参考作品を鑑賞しよう

- ・木彫りの箱やお盆など鑑賞
- ・写真や動画を鑑賞

図案を考えよう ①②

- ・全部で5面あるんだ
- ・どこを彫ろうかな
- ・どんな色にしようかな

・木の彫り方を確認する
・線彫り、浮き彫りなど彫り方を考える

木を彫って作ろう ③本時 ④⑤⑥⑦⑧

- ・浮き彫りは難しいな。
- ・どのくらいの深さで彫ればいいのか？

・作業手順を確認する。
・木彫り、彩色、ニス塗の工程と時間配分を考える。
・彩色前にやすりをかけることを確認する。

・木彫りの動画を鑑賞して彫り方を確認する

色を付けて完成させよう ⑨⑩

- ・どんな色で塗ろうかな
- ・色の塗り方が難しいな。

友達の作品を鑑賞しよう ⑪

- ・みんなの作品いいな
- ・工夫して彫ってるな

・お互いの良いところや工夫しているところを話し合う。

6 本時について

本時目標 自分の思いに合った表現ができるように構図と彫り方を考えて表すことができる

学習活動	主な支援・留意点
<p>1 本時の学習課題をつかむ</p> <p>下絵を完成させよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上の面と4側面についての絵を考える ・上の面を写し紙とカーボン紙で写す <p>木彫の技法「浮き彫り」について知ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの製作過程を確認する ○学習の流れや進め方について確認する ○下絵をもとに上面の板に写すことを確認する ○「浮き彫り」の技法の動画で手順を確認する
<p>2 下絵を写して木を彫ろう</p> <p>思い出に残るグラウンドボックスにしたい</p> <p>自分のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックは使えないの？ ・どこから彫ればいいのか？ ・どの彫り方でいいのか？ ・全回休んでいたから下絵まででいい？ ・もう線彫りできたよ ・浮き彫り難しいな 	<ul style="list-style-type: none"> ○まずは線彫りから進めることを伝える ○クロームブックに関しては参考で調べるときのみ使用 ○自分の作業時間も考えて上面のみ彫る、彩色でもよいことを伝える。○単元時間内に終われるように計画するように伝える。時間が余り過ぎたり足りなくなったりしないようにする。 ○進み具合は自分で考えていくので急がないように伝える ○最初に線彫りを彫るが深くなりすぎないように伝える ○線彫りができたら浮き彫りに入ることを伝える
<p>友だちの作品を見よう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちの作品をみて良いところを自分の作品に生かすことを伝える
<p>イメージに合った表現方法</p> <p>3 本時の学習を振り返り次週の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○片付けもしっかり行うよう伝える ○本時の活動の進み具合と製作計画を確認し、次時の活動の見通しがもてるようにする。

7実践を終えて

本単元は小学校の図画工作科の最後に近い作品として、これまでの学習を生かし「卒業制作」として取り組むことを話した。本時までには下絵を考えることはほとんどの子どもが終わっていた。現在取り組んでいるスポーツや小学校の思い出（修学旅行）、好きな生き物や好きなことなど個々に真剣に考えて取り組もうとしている姿が見られた。本時では下絵をもとに、木の板に下絵を写して木彫の技法「浮き彫り」を取り入れて彫っていく最初の段階となる。「浮き彫りの彫り方」についての動画を見た後に個々の作業に入った。下絵のどの部分を浮き彫りにしていくかは机間指導にて個々に対応した。授業最後での友達の作品を見合う時間はとることができなかった。個々の作業に入り木の板に下絵を写す子どもも多く、作業を中断することが難しかった。また彫刻刀の作業に入る子どももいたため片付けの時間も考慮して、作品を見合う時間を設けず終了した。作品は授業の終わりに教室の後ろの棚に出席番号順に並べたため、その時点で友だちの作品を見合うことができた。

（成果）

本時の成果としては「浮き彫りの彫り方」の動画を見ることで彫り進めるイメージが持てたことはよかったと思われる。また机間指導にて浮き彫りの作品を見て、どの部分を浮き彫りにするかを考えることで見通しを持つことができたと思われる。

（課題）

本時の課題としては彫刻刀の作業に入る最初の授業のため、彫刻刀の基本的な使い方について安全指導をしっかり行うほうがよかったと考える。授業の内容を盛り込みすぎて時間的にも余裕がなくなってしまった。本時の目標をもう少し具体的なものにしていくほうが余裕があるものとなったと考える。また授業最初での下絵の時点で友だちの作品を見合う時間を設ければ、友達の作品の工夫しているところや発想の広がりを促し、お互いにひびき合うことができたと考える。制作途中で友達の作品を見合う時間があれば、自分では思いつかなかった新しい表現につながり制作意欲にもつながるとと思われる。その時間や展示方法の工夫が今後の課題である。